

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市大山街道ふるさと館	評価対象年度	平成29年度
事業者名	・事業者名 川崎市大山街道ふるさと館共同運営事業体 代表団体 公財)川崎市生涯学習財団 代表者 理事長 山田 雅太 住所 中原区今井南町28-41 構成団体 認定特定非営利活動法人教育活動総合サポートセンター	評価者	総務課長
指定期間	平成26年4月1日～平成31年3月31日	所管課	高津区役所まちづくり推進部総務課

2. 事業実績

利用実績	貸室利用者数30,458人、貸室利用件数1,870件、展示室利用者数10,545人
収支実績	収入総額26,296,409円（指定管理委託費23,617,866円、利用料金収入2,169,700円、雑収入508,843円） 支出総額26,410,107円
サービス向上の取組み	・ふれあいネットの個人カード利用の解禁と音楽等の音の出る活動での利用を認めたことにより、貸室利用者に対しての利便性の向上を図った。 ・貸室の施設整備にあたり、イベントホールの壁を活用できるようピクチャーレールの設置や、和室の出入りに座布団を設置し高齢者が腰を下ろして靴の履き替えができるようにするなど、利用者意見を反映して実施した。 ・2階談話室に設置している掲示物の入れ替えや配架している図書増加に取り組み、地域の歴史への関心を喚起する機会を創出した。

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
総合的な運営状況	基本方針	施設の設置目的に沿った適切な運営を行っているか	5	4(0.8)	4
	事業成果の測定	事業実施による成果の測定が適切に行われているか。	5	3(0.6)	3
(評価の理由) 事業計画に沿った過年度からの継続的な取組みのほか、3月には常設展を「大山街道～溝口・二子～ふるさとの歴史・民俗・生活展」にリニューアルし、誰もがわかりやすい展示を目指し「常設展案内」を作成・配布するなどの取組みが為され、市民の郷土理解促進と地域の文化活動発展により一層貢献した。 地域活性化事業においては、大山街道活性化推進協議会の推薦を受け「地域コーディネーター」を委嘱し、毎月連絡会議を開催して地域連携や地域活性に向けて地域団体と協力関係を構築し、大きなイベント等を増やしたり館の認知度向上を図った結果、今年度の総来館者数が5年間の目標である62,000人を初めて超え63,499人となった。					
管理業務の実施状況	維持管理等	施設利用の提供に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に行っているか。	5	3(0.6)	3
	利用料金	適正な料金徴収を行い、遺漏のない金銭管理を行っているか	5	3(0.6)	3
	個人情報保護や情報公開	個人情報の保護や情報公開を適切に行っているか	5	3(0.6)	3
	利用促進	施設の利用促進に向けた取り組みが成されているか。	5	4(0.8)	4
	人員配置	適切に職員を配置し、円滑なローテーションを行っているか	5	2(0.4)	2
	人材育成	業務に関する研修を行い、職員の資質の向上に努めているか	5	3(0.6)	3
	危機管理等	通常の安全管理や、緊急時を想定した計画・訓練などを行うとともに利用者のニーズの把握につとめ適切な対応を行っているか	5	3(0.6)	3
(評価の理由) 施設の老朽化が進む中、定期点検等を遺漏なく行い、また、新たに施設点検表の導入など適切な施設管理が為されている。 貸室利用について、稼働率は対前年度微増となっており、利用者意見を酌んだ施設整備(ピクチャーレールの設置等)や貸室機会拡大(個人カード利用者の解禁と音の出る活動(大音量でない楽器使用)の解禁)に努める等、精力的に利用促進策に取り組んでいることは評価に値する。 年度途中で館長の交代が発生し一時的に館長不在期間があったことは、やむを得ない事情があったにせよ、館の運営や事業の継続性の観点などから望ましいものではなく、人員配置の観点で適切ではない。 財団で実施している研修やふるさと館での自主研修など職員研修への積極的な参加を行っており、適切な人材育成が為されている。 区役所が主導する防災関連の各種施策への積極的な協力、防災に関する訓練や研修の実施、備蓄品の充実など、万一の事態に備えた体制構築も着実に進んでいる。					
事業実施状況	施設を活用したサービスの提供	市民に親しまれるふれあいと学習の場を提供しているか。 地域団体や他施設と連携して魅力ある事業を展開しているか	10	4(0.8)	8
	施設の利用に関する業務	利用者の立場に立ったサービス提供を行い、利便性の向上に努めているか 充実した広報活動等により、施設の利用促進が図られているか	15	4(0.8)	12
	大山街道についての資料の展示等に関する業務	郷土の理解を促進する、魅力ある企画展を提供しているか 常設展示について、魅力ある展示の工夫につとめているか	15	3(0.6)	9
	事業の開催に関する業務	郷土理解の促進に寄与する文化事業や市民のニーズに即した文化事業を行っているか	5	4(0.8)	4

収支状況	(評価の理由) 地域連携や地域活性化に向けた取り組みとして、春のふるさと館まつり、高津区民祭、ふるさと館サポーターズまつり、大山街道フェスタなど季節ごとイベントの開催や連携協力を行い実施し、大山街道の魅力やふるさと館のPRを行い、通常の展示室利用者と異なる層の市民・区民が来館したことで館の認知度向上にもつながった。 故上田恒三氏の寄贈史料の釈文作りに取り組み、企画展やリニューアルした常設展で展示を行うなど寄贈史料の積極的な活用を行ったことについては評価に値する。 常設展において、3月に「大山街道～溝口・二子～ふるさとの歴史・民俗・生活展」にリニューアルを行い、展示室へのスロープにも大山街道とニッ傾用水等の歴史など展示するなど限られたスペースを有効に活用し展示を実施するなど、工夫が見られた。				
	安定性	適切な収支計画に基づき、安定した運営を行っているか	5	3(0.6)	3
	効率性	市民サービスの向上に努めながら、効率的な予算執行が図られているか	5	4(0.8)	4
(評価の理由) 前年度と同程度の経費執行状況ながら、収蔵品の保全のための資料燻蒸や新たにウェブアクセシビリティ委託を実施するなど、限られた予算内で工夫し執行を行い、市民サービス向上に向けた取り組みを実施している。 適正な予算執行がなされている。					

4. 総合評価

評価点合計	68	評価ランク	C
-------	----	-------	---

注) 評価点:100点満点。評価ランク:5段階評価

A:80点以上 B:70点以上80点未満 C:60点以上70点未満 D:40点以上60点未満 E:40点未満

A:特に優れている B:優れている C:適正である D:改善が必要である E:問題があり適切な措置を講じる必要がある

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

常設展のリニューアルや趣向を凝らした企画展の実施、幅広い世代を対象とした歴史文化探求講座等の実施、館主催や連携協力を行った地域活性化に関連するイベントの開催など、博物館事業・歴史文化探求事業・地域活性化事業それぞれにおいて、創意工夫し意欲的に取り組んだ。貸館業務についても、個人カード利用の解禁と音楽等の音の出る活動での利用を認めたこと。また、利用者の声を踏まえた設備の改善など利用者の利便性の向上に向けた取り組みを実施し、その結果、前年度の総入館者数を約3,000人上回る63,499人となったことは、館の工夫と努力が認められ、これらを評価点に反映させた。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

過年度の取組みを踏まえ、人材育成や利用者ニーズ把握等、サービス向上に係る各種取組みを継続しながら、事業計画に基づき事業を適正に実行すること。

貸館業務については、公平かつ平等な利用を確保しつつ、貸室利用件数や稼働率の好調を維持すること。さらに、各種事業による来館者の増が貸館利用に結びつくよう来館者への訴求手法を検討するなど、各種機会を捉えた貸館利用料収入の向上の実現に向けて一層工夫と努力を行うこと。

施設管理にあたっては、安全な利用のための各種設備機器のメンテナンスはもとより、利用者意見を踏まえた設備の改善・充実を継続して行い、利用者にとってより快適で利便性の高い施設となるよう工夫すること。

指定管理業務仕様書3(4)オに明示する故上田恒三氏寄贈資料の整理を完了させること。また、これら寄贈資料を常設展や企画展など各種事業に活用すること。

これまで構築した地域団体との良好な関係を維持し、地域主体の行事への積極的な協力等や館主催事業における連携をさらに深めること。

平成28年4月に「江戸庶民の信仰と行楽の地～巨大な木太刀を担いで『大山詣り』～」が文化庁から日本遺産に認定されたことや、平成27年に大山の自然景観がミシュラン・グリーンガイド・ジャポンで二つ星の評価を受けたことなど、大山に注目が集まっていることを機会と捉え、市民はもとより来街者や訪日外国人などにとって魅力ある館となるよう、広報や展示内容の充実に努めるとともに、高津大山街道の振興に寄与すること。